

日本教育新聞

四国版

日本教育新聞社

〒108-8638 東京都港区白金台3-2-10
☎03(3280)7008(大代表)

郵便振替 0015-8-196500

©日本教育新聞社 2023

関西支社

〒530-0044 大阪市北区東天満1-3-10
南森町アーバンビル5F
☎06(4800)3777

購読申し込み
☎03(3280)7025
Eメール kodoku@kyokur-press.co.jp
http://www.kyokur-press.co.jp

楽しい学校&地域も学校

高松市立屋島東小学校

人口42万人を数える中核市高松の東部に位置する屋島東小学校(安西幸子校長、児童86人)は、高松自動車道中央インターチェンジから20分、美しい瀬戸内海に突き出た溶岩台地、天下の名峰「屋島」の東岸に位置し、海・山の自然環境豊かな地域に立地している。東に五剣山を仰ぎ、西に屋島を背面に抱き、北に瀬戸内海に面するすばらしい自然環境に恵まれた学校である。

7世紀頃に作られたといわれる古代山城「屋嶋城」(やしまのき)、12世紀後半の源氏と平氏が争った源平の古戦場を学から東の海に臨む。あの那須与一の「扇の」のいわれのあるところをはじめ、現在も多くの源平合戦に関わる史跡、名勝が多く残り、豊かな歴史のな学習教材がある。ともに、海や山を間近に控え、自然を用いた自然科学学習にも最適な自然環境に囲まれている。

この地域は、かつては農業や漁業、製塩業の盛んな地域であったが、現在高松市のベッドタウンの役割を果たして、閑静な住宅地が多い地域である。児童数はピーク時の平成2年の265人から年々減少し、現在は86人、学級数9クラス、全教職員数24人の小規模校となっている。明るく、素直で純朴で、家族的雰囲気の中で温かい人間関係を築くことのできる協調性に富んだ子どもたちが多い。

教育目標「ふるさとを愛し、心豊かで、たくましい子の育成」、学校経営目標「地域の特色(教育環境や教育資源)を生かしながら、生きて働く確かな学びと心豊かであらう人間性を育む教育を、協働体制のもとに創造する」と設定し、「楽しい学校&地域も学校」をスローガンに名勝屋島や瀬戸内海を望む自然環境や地域の人材を活用した教育活動を展開している。



国有林を使って校外学習

地域ボランティアの方々は令和5年度1学期だけで延べ160人に達

し、体験学習としての「むかし遊び」、「野菜づくり」、「町探検」など、地域学習としての「屋島の自然」、「屋島の歴史」の学習、3世代のつどい、スマイルあいさつ運動、校舎の清掃活動を行う「びかびかデー」などの活動を地域の方々との協力を得て活発に行っている。

3・4年生になると国有林を活用した特色ある体験活動を行っている。これは、林野庁が自ら森林づくりを体験したい、森林づくりを通じて社会貢献をしたい、森林の役割を学ぶ森林教室を行いたいなどのニーズにこたえる目的で、国民参加の森林づくりを推進しているもので、この取り組み

と連携して取り組んでいる。「遊々の森」における学習は、森林環境教育を目的とした自然観察や、体験学習の場として国有林を活用した学習である。

毎年秋に屋島の中腹まで子どもたちは歩いて登り、「遊々の森・ドキドキわくわくコース」でターザンロープやハンモック、フランクコ等で遊ぶとともに、屋島の自然を活用した自然観察や自然の浄化作用を学ぶなどの体験学習を行っている。

また、子どもたちに確かな学力をつけるために、毎週金曜日には30分間の「マイ・スタディ」の時間を設け、作文力や読解力の育成を行うとともに、ICT機器の活用による学習の活性化を図るためタブレットの持ち帰りによる家庭学習の習慣化も図ろうとしている。本年度からは、金融・金銭教育の研究指定も受け、働くことへの価値、感謝の心・自立の心を育て、そして自己の生き方や価値観をみがき、主体的な行動がとれる人間を育成したいと考えている。

児童数が減少する中、安西校長は小規模校ゆえに、できる限り地域の方々の協力のもと、魅力ある学校づくり、地域づくりのため、学校外の多くの方々とのふれあいの機会を多く設定しようとする前授業やボランティア活動などを積極的に活用し、教育活動の活性化を図る手立てを講じている。このような地域と心温まる密接な連携は子どもたちの心の育みにも大きな効果があるように感じた。このすばらしい自然や歴史的環境、そして温かい支援のもとで育った子どもたちが将来この屋島東を愛し、支える心やさしい人間に成長することを願っている。

教育雑感

高知市一宮(いっく)中町3丁目の高知東署一宮交番が「一宮交番ふれあいまつり」を始めてから20年以上の歴史を刻む。警察と地域の段差をなくして、住民に親しまれる交番にしようとする取り組みが、パトカーの体験乗車にスポーツチャンバラ、警察官と子どもたちのダンス…。イベントをしかけ、次々と新しい企画を実行してきた一宮交番連絡協議会長の久保正司さん。

合で警察署の幹部に直談判した。「地域のひとと交番が手を携えてお祭りをしてみよう」と。その年の秋から「一宮交番ふれあいまつり」が始まった。地元の小学生の和太鼓で幕開けし、白バイの体験乗車には子どもたちの長い列ができた。そして、大盛況のお祭りは一宮地区の恒例行事となっていく。

今春の異動で一宮交番所長となった岡田考平さんは「他にはない交番。子どもたちもお祭りもあひさつして年寄りもあひさつしてくる。交番と地域の距離の近さを感じる。大久保さんたちが長年築き上げてきたものだから」と。今年のお祭りに、

一宮交番まつり20年

20回目の交番まつりを実施したい」と熱く語る。予定の10月7日へ向けて5年ぶりの開催を目指し、地域と交番と子どもたちを巻き込んだ「お祭り」の準備が進む。気がついたら「一宮の安心・安全」がより強くなるのが見える。お祭りへの準備が進む中、8月19日にショッキングなニュースが飛び込んできた。何と大久保会長さんが不慮の事故で急逝されたという。実行委員会の開催時には、ふれあいまつりの会議室から溢れるほど多くの地域関係者が集まっていた。大久保会長さんを慕う人々が中心となっていて、お祭りを盛り上げていた。急に屋台骨がなくなると不安もあるが、子どもたちが楽しみにしている行事。残された実行委員が故人の遺志を継いで盛大な20周年の交番まつりを実現することを確信している。実行委員のみなさん頑張らましよう。大久保会長さん、どうか安らかに眠りください。(宮英司・四国版編集委員)